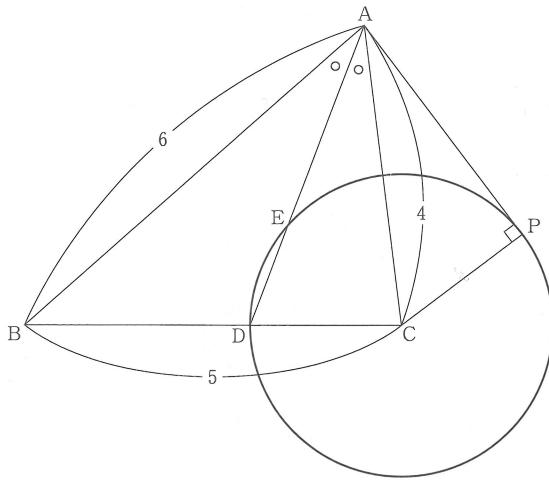


第5問 図形の性質



(1) 直線 AD は $\angle BAC$ の二等分線であるから,

$$\begin{aligned} BD : DC &= AB : AC \\ &= 6 : 4 \\ &= 3 : 2 \end{aligned}$$

すなわち

$$\frac{BD}{DC} = \frac{\boxed{3}}{\boxed{2}}$$

であり,

$$\begin{aligned} DC &= \frac{2}{3+2} BC \\ &= \frac{2}{5} \cdot 5 \\ &= \boxed{2} \end{aligned}$$

である。

直線 AP は円 C の接線であるから,

$$\angle APC = 90^\circ$$

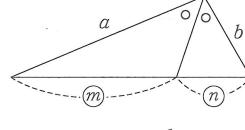
である。

$\triangle ACP$ は, $AC = 4$, $CP = CD = 2$, $\angle APC = 90^\circ$ の直角三角形であるから, 三平方の定理を用いると,

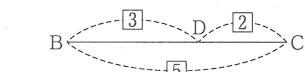
$$\begin{aligned} AP &= \sqrt{AC^2 - CP^2} \\ &= \sqrt{4^2 - 2^2} \\ &= \boxed{2} \sqrt{\boxed{3}} \end{aligned}$$

である。

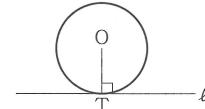
角の二等分線の定理



$$m : n = a : b.$$

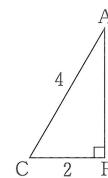


円の接線と半径

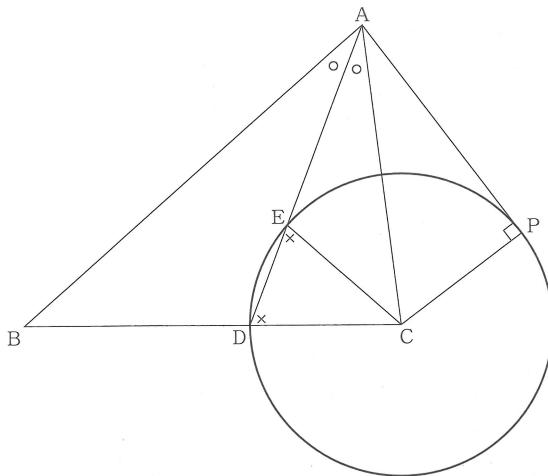


$$OT \perp l.$$

(O は中心, T は接点)



(2)

 $\triangle ABD \sim \triangle ACE$ において、

$$\angle BAD = \angle CAE,$$

$$\begin{aligned}\angle ADB &= 180^\circ - \angle CDE \\ &= 180^\circ - \angle CED \\ &= \angle AEC\end{aligned}$$

であるから、 $\triangle ABD \sim \triangle ACE$ は相似である。

よって、力に当てはまるものは ① である。

したがって、

$$AD : AE = AB : AC$$

より、

$$AD : AE = 6 : 4$$

$$6AE = 4AD$$

$$AE = \frac{2}{3}AD$$

であるから、円 C と 2 直線 AD, AP に方べきの定理を用いると、

$$AE \cdot AD = AP^2$$

$$\frac{2}{3}AD \cdot AD = (2\sqrt{3})^2$$

$$AD^2 = 18$$

$$AD = \boxed{3}\sqrt{\boxed{2}}$$

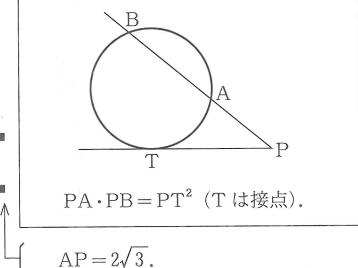
である。

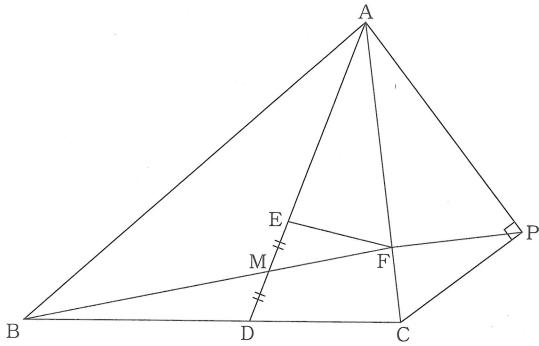
直線 AD は $\angle BAC$ の二等分線。CD = CE であるから、
 $\angle CDE = \angle CED$.

あと(注)参照。

 $\triangle ABD \sim \triangle ACE$. $AB = 6, AC = 4$.

一方べきの定理





$$AE = \frac{2}{3}AD, EM : MD = 1 : 1$$

であるから、

$$\frac{AM}{MD} = 5$$

である。

よって、 $\triangle ADC$ と直線 BF にメネラウスの定理を用いると、

$$\frac{AM}{MD} \cdot \frac{DB}{BC} \cdot \frac{CF}{FA} = 1$$

$$5 \cdot \frac{3}{5} \cdot \frac{CF}{FA} = 1$$

$$\frac{CF}{FA} = \frac{1}{3}$$

であるから、

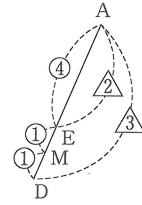
$$AF : FC = 3 : 1$$

である。

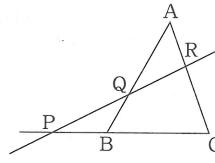
したがって、 $\triangle AFP$ の面積を S_1 とすると、

$$\begin{aligned} S_1 &= \frac{AF}{AC} (\triangle ACP \text{ の面積}) \\ &= \frac{AF}{AC} \left(\frac{1}{2} CP \cdot AP \right) \\ &= \frac{3}{4} \cdot \frac{1}{2} \cdot 2 \cdot 2\sqrt{3} \\ &= \frac{3\sqrt{3}}{2} \end{aligned} \quad \cdots \textcircled{1}$$

である。

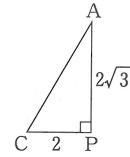


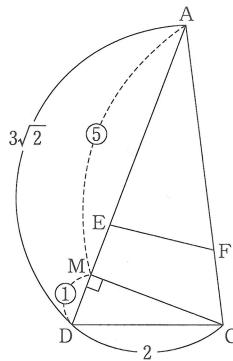
メネラウスの定理



$$\frac{AQ}{QB} \cdot \frac{BP}{PC} \cdot \frac{CR}{RA} = 1.$$

$$\frac{AM}{MD} = 5, \quad BD : DC = 3 : 2.$$





$$DM = \frac{1}{5+1}AD = \frac{1}{6} \cdot 3\sqrt{2} = \frac{\sqrt{2}}{2}$$

であるから、直角三角形 CDM に三平方の定理を用いると、

$$\begin{aligned} CM &= \sqrt{CD^2 - DM^2} \\ &= \sqrt{2^2 - \left(\frac{\sqrt{2}}{2}\right)^2} \\ &= \frac{\sqrt{14}}{2} \end{aligned}$$

であり、

$$\begin{aligned} (\triangle ACD \text{ の面積}) &= \frac{1}{2}AD \cdot CM \\ &= \frac{1}{2} \cdot 3\sqrt{2} \cdot \frac{\sqrt{14}}{2} \\ &= \frac{3\sqrt{7}}{2} \end{aligned}$$

である。

よって、 $\triangle AEF$ の面積を S_2 とすると、 $\frac{AE}{AD} = \frac{2}{3}$, $\frac{AF}{AC} = \frac{3}{4}$
より、

$$\begin{aligned} S_2 &= \frac{AE \cdot AF}{AD \cdot AC} (\triangle ACD \text{ の面積}) \\ &= \frac{2}{3} \cdot \frac{3}{4} \cdot \frac{3\sqrt{7}}{2} \\ &= \frac{3\sqrt{7}}{4} \quad \cdots ② \end{aligned}$$

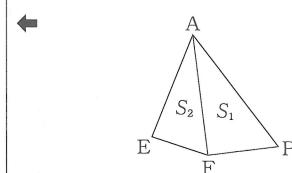
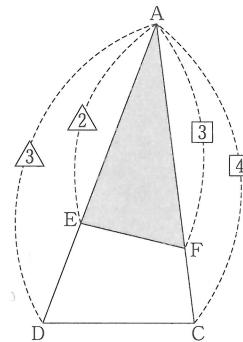
である。

①, ② より、

$$\begin{aligned} (\text{四角形 AEFP の面積}) &= S_1 + S_2 \\ &= \frac{3\sqrt{3}}{2} + \frac{3\sqrt{7}}{4} \\ &= \frac{[6]\sqrt{3} + [3]\sqrt{7}}{4} \end{aligned}$$

である。

◀ $\triangle CDE$ は $CD = CE$ の二等辺三角形
であり、M は辺 DE の中点であるから、
 $\angle CMD = 90^\circ$.



(**力**についての注)

△ABD は鈍角三角形であるが、△ACP は直角三角形、△ADC は鋭角三角形である。また、

$$AE : AP = \sqrt{2} : \sqrt{3}, \quad AB : BD : DA = 2 : 1 : \sqrt{2}$$

より、△AEP と △ABD に長さの比が等しい 2 辺の組は存在しない。

よって、△ABD は △ACP, △ADC, △AEP のいずれとも相似でない。

◀ AE = $2\sqrt{2}$, AP = $2\sqrt{3}$, AB = 6,
BD = 3, DA = $3\sqrt{2}$.